

1

國
強
豆
の
精
華

育田晉公

國土の聲前篇
天覽を賜ふ

田
習
松

取調問閣に對する第三次の事案として、昨年四月、吾手
 したる國士の望前藩(四六四番)轉^レ、四月五日、千賀
 は、祝儀に臣大將を歸朝する向、大家を預託を得て、
 金手押考を眞江藩に表出に印刷し、その裏面に忠
 臣、人々、人徳の事蹟に表出に印刷し、その裏面に忠
 臣、加ふらにその御殿に附したるを以て、而、悉く
 國に附屬の資となするはなし、臣實が一、年、打、
 心腹に應じて熱心從事す、國士の望前藩は、一月一日、
 本出、たるを、二月、宮省に出頭して、
 落じて上京し、二、宮省に出席して、

天皇
皇后兩陛下
皇太子殿下

一國士の聲

天皇
皇后兩陛下

皇太子殿下獻納願

出之趣ヲ以テ傳獻被

致候二付

御前差上候此段

申入候也

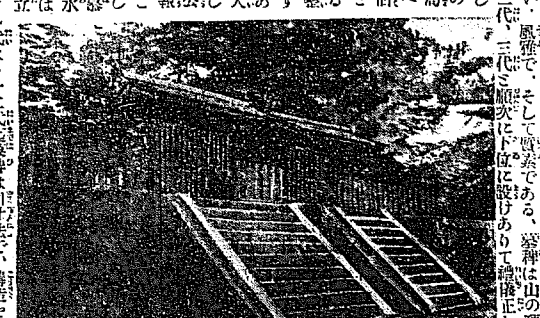
大正十年九月七日

富食子齋牧野仲顯

大政市東區南本町三丁目
十一番地
有田音松殿


 上海圖書館藏
 1000

忠孝兩全の徳川光圀公の墓に詣つ

[illegible][illegible]

一世の師表たるべき學者の中に
 歐米心學者の多いのは實に附つたことを知らないものである
 たものである 歐米心學者等は日本に生れながら、日
 は實に自己を誤るのみならず 國體を知らない非國民であ
 る彼等の處に惡化する、青年も稀にもかゝらない矣前著
 亦決して解くなく
 いで我國陛下
 の現像は表面は
 兎に角、裏面は
 は最悪思想が潜
 伏してゐるこ
 れは疵に憂ふべ
 きことである

予は四百三十
 箇所の悪習慣を
 有してゐる、專断暴行等は業經
 上予の手記となりて、日夜奮勵
 して、ある、けれどもそれは業務
 上の結合であつて思想上の結合
 でないから、思想問題に關しても
 は意見を異にする者があるかも知
 れない、雖し、業務上の結合關係
 内であつても、若し予の部下から
 危險思想を保持する者が出て來
 るといふ事態があつたならば、再
 予の面目は全て潰れて了ひ、再
 び天下の同志に顧するべきが出

有田君 家の事
 家事を
 復し

神宮大宮司 正一位子爵三二



官日金

き學者の中に主權に依りて國運を掌握し來つて彼等の爲に國を誤らないやうな
のは實に樹つたことを知らないものである、彼等が肝要である、
米心醜の學者等は日本に生れながら、日本の國體を知らざり非國體で寧にも
のみならず、青年も概しも可からざる者がある、
神宮大官司司正一位子爵三室戸和光大臣寄贈の祝歌


有田君 家の業君ハハツミ
お世々を ともあゆみゆくぞ元
親イ

三月廿九日八十箱張

思想の善導

有 田 晋 松

來つ彼等の爲に國を誤らないやうな
 彼等注意が肝要である、
 本日の
 本協所長總會は九月七日より
 九日に亘る三日間宇治山田市千
 にある秋樓上二百五十疊の大廣間に開
 主戸和光大入奇蹟の祝歌



きたるが北海道、岩手、津、
 朝鮮、滿洲、支那等よりの來會
 者中廣間の爲に遅刻した者があ
 つたので、開會に先立ち千疊宮
 に參拜する儀定を變更し、九日
 午前七時廣間整々外宮に參拜し
 徒歩にて内宮に參拜し、太々神
 樂を觀し

商會今日の發展を拜
 謝し、本店と專賣所
 を協同一致して眞實
 を旨とし、我利に流
 れず、濟世の目的を
 遂行し、國運の發展
 を企圖することを神
 に誓ひたり

斯く祝辭たる五十鈴川の柳畔
 に記念の撮影をした

專賣所總會の出席者は二百三
 十名であつたれど、皆一地方
 の代表向の人物で、神宮は崇の
 念は深まり、手が總會の開會地
 を御前に選んだため、從來開き
 たる數回總會に比して、來
 會者に非常なる印象を與へたる

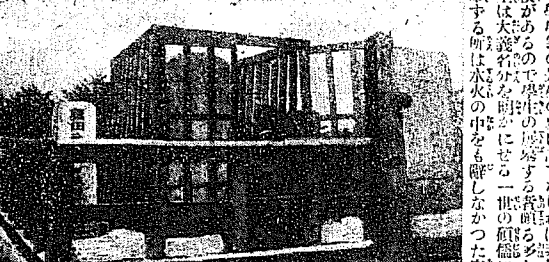
から謝罪の意に盡してゐたのである。

孝子で憂國の士たる藤川東湖の墓と記す。藤川東湖の墓は、圖で、後水戸の郊外、地蔵堂村にある。孝子藤川東湖の墓に詣つて東湖先生は儀式にて葬られたるを以て轍々捐助し、祭文を奏せんとせしが附近に神職なく已むを得ず僧侶の墓に遷した。藤川先生の遺體は清浄に結き清められあり人々の語る處に依れば先生の子孫は小月原にありて常に僧人にあひまつ同地方の學生會の先生の墓に詣でなければならぬといふことである。先生は大覚行かたの時かにせる一匹の紅龜の多しに便を要さば、師の命する所は水火の中をも離しなかつた安ん

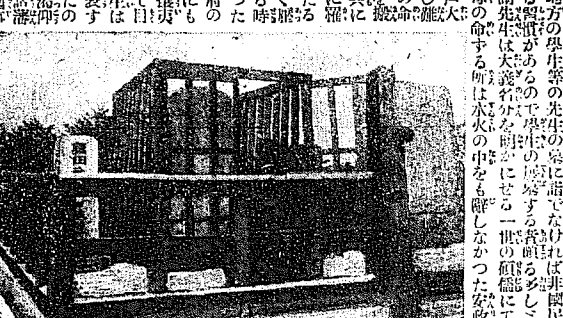
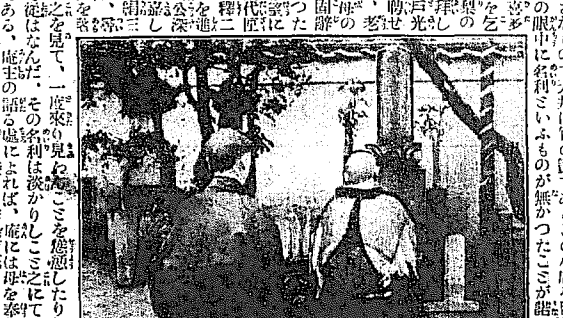
年十月二十日（舊曆九月十一日）

震あり母を奉じ難く死に候へば命を避けしも母の命により一家財を喪失すべく母と共に家に歸りて災に罹り母は助かりたりも先生は幸しく體死したのである時

に年五十であつた水戸は廣川幕府の藩邸であつたにも拘らず御主權夷論の本陣を以て目撃され諸藩洗滌は皆に驚亂を代表する地位にあつたので天子志士の渴仰する所となりて國事の機才來りて國事を論じ救へざる者には其の門に與まらばだつた要害を洞悉し已てよく國政論を唱し且兵患重絶の警覺を發揚しなりし事實があるや先生は之を讀んで先生の榮耀なる愛國心熱の溢るるを痛感し先生をして代仕にあらしめたであらうか

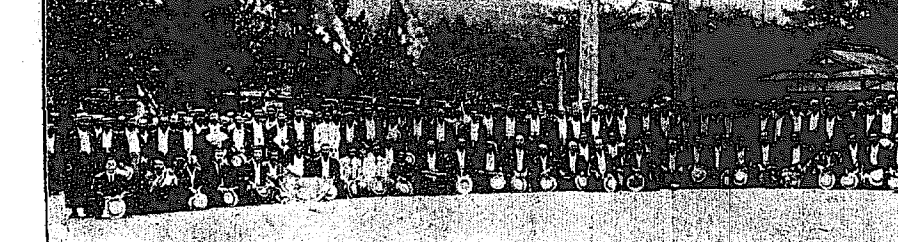
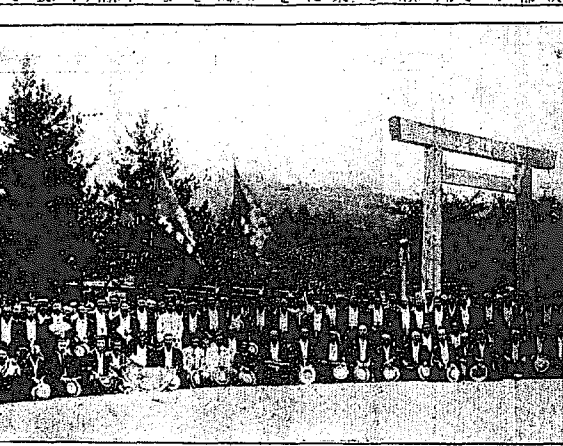


藤川東湖の墓と記す

[illegible][illegible]

吾しかる。他國に對し、抱負するものがあるならば、個々までも之を達し、心機の一轉を圖るべきである。そして四百三十の專賣所長をして、業務の傍に日本主義を宣傳せしむる方針である。今は如上の見地から本年の秋季、專賣所長懇話會の開會地を神都（金田山）に遷定した。即ち專賣所長と共に歓迎に赴き、親睦なる親戚を感じしめ、根本反始の念を起しめ、國體の精華を體得せしめたい。偉大である我國が開國に際し、千平の開未だ付て外國の爲に蒙辱せられたことのない、世界無双の歴史を有してゐるのは何故であるか。國威八紘に輝きて、世界五大國の列に列したのは抑も何故であるか、物質的から比較したならば我國は理底地の寒米諸國に及ばないのである。けれども精神的の健全が奮闘で、皇室を中心として外國一致の美徳が、我國運を隆盛ならしめてゐるのである。

寒米心腹の要否や、社會主義を唱ふる者や、他國思想を抱懐する者等は、我國師の精華を知らないのであ。彼等は我が國の



た。世の成功者は必ず神宮に参拜して御禮を申さうべきである。この意味に於て、銀行や、會社の總會を神宮に開き、株主や社員に知らず知らずや敬神愛國の念を喚起せしめたいものである。神宮は物故に神教的處であるから、若し軍政を交へしめて經濟上になしたる影響はない、殊に廣い會場が幾くもあるし、旅館も深山にあるから何等不便を感じない。

予はこの總會に於て臨時以上の効果を取たい。予の事業は日月に向上を感し、思想の普遍にも多大なる結果を得ることであらう。今直にその効果を出し得るにもせよ、少くも予の部下より敬神思想を除き去らねばならぬのである。予は決して成功者ではない、今日の盛衰したものは即ち祖先の賜である、日本の大祖先を奉祀する神宮に参拜して御禮を申さねばならぬ、かくして予に更に諸會社の親賀をなすもの、神宮に聞かれんことを勧告するものである。若し夫れ重役乃至士族にして厚く神愛國の念を起したならば彼の思ひべき榮譽、親戚などいふことも自然に除去せられ、商業の發達も達し